

令和5年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価（3月11日実施）	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒の基礎学力を充実・定着させ、学科併置の特色をいかし、磨き合う学習活動の工夫・改善に取り組む。</p> <p>②国際化、6次産業化を視野に入れた教育課程の充実を図る。</p>	<p>①生徒の基礎学力を充実・定着させ、学科併置の特色を活かす。学習活動の工夫や改善に取り組む。</p> <p>②6次産業化を視野に入れた教育課程の充実を図る。</p>	<p>①朝学習の教材や指導方法を工夫する。</p> <p>①「アグリ・ビジネス」のカリキュラムを充実させる。</p> <p>①学習活動改善に向けた職員研修への参加を促進するとともに職員間の授業観察や職員研修を行う。</p> <p>②ICT機器活用し国際化や6次産業化を視野に入れた各科が連携した取り組みを行う。</p>	<p>①生徒による授業評価で授業の在り方や学習状況について効果的な分析を行う。</p> <p>①学科併置の特色を生かした効果的な内容の取り組みができたか。</p> <p>①研修内容の掲示や周知、職員間の授業観察期間の実施。</p> <p>②施設設備を活用し、学科間の連携を視野に入れた授業改善の取り組みが実施できたか。</p>	<p>①朝学習の教材を工夫し、基礎学力の定着を図るため確認テストを実施した。</p> <p>①「アグリ・ビジネス」のカリキュラムとして「花菜ガーデン」への見学を実施した。</p> <p>①学習活動改善研修の日程設定は難しかったが、教員相互に授業見学など行えた。</p> <p>②6次化製造室を利用した生産物の販売ができた。また、生徒が栽培したダイコンを漬物に加工することができた。</p>	<p>①朝学習の監督教員配置については、朝の職員打合せの時間と重なり調整が難しいことが課題である。</p> <p>①「アグリ・ビジネス」のカリキュラム(通年)作成時において、課題・問題点を整理する。</p> <p>①経験の浅い教員を中心に年次経験者の授業見学・反省会の時間について調整する。</p> <p>②6次産業化への取り組みを学校全体に広げるべく、専門教科が中心となり、科・系列・大学科と連携をすすめる。</p>	<p>○朝学習の監督については、生徒が自主的に学習できる体制づくりと生徒の意識づけがあるべき姿とを感じる。</p> <p>○学科併置の特色を生かした「アグリ・ビジネス」は全国でも本校しか実施していない独自の学校設定科目なので大切にしていきたい。また、「花菜ガーデン」見学など地域との取り組みについては今後も活性化すべきである。</p> <p>○専門高校では日々の取り組みや活動が盛んであり教職員が多忙である。研修時間確保のため、様々な業務の取捨選択、精選が必要とを感じる。</p> <p>○6次産業化の取り組みは大変魅力的である。校内だけではなく、今年度は生徒が地域小学校に出向き、給食食材を調べ、「食べ残しを少なくするには」をテーマに小学校栄養士と話し合うなど実践的な取り組みをみることもできた。</p>	<p>①確認テストの結果から、基礎学力の向上がみられ、教材工夫の成果と生徒の朝学種への取り組み意識が上がっていることが感じられる。</p> <p>「アグリ・ビジネス」では、本校農産物を使用した商品企画を実施することができた。</p> <p>学習評価の指定校として公開研究授業の開催と他校への参加ができ、その成果を共有することが出来た。また、計画的な職員研修への日程調整は課題となるが、新採用者を中心に職員相互の授業見学などは盛んに行われており、「生徒による授業評価」の第2回調査結果では、学校全体で評価4(かなり当てはまる)の伸びが著しいことから授業改善の試みの成果がみられている。</p> <p>②6次産業化の取り組みとして、本校の農産物を利用したジャムの開発を実施した。食材提供は園芸系列、試作は食品系列、ラベルデザインは総合ビジネス科が担当し、農商併置の特色を生かした取り組みが出来た。今後、国際化・地域連携をテーマに更なる充実を目指す。</p>	<p>①朝学習の監督教員配置は、職員打合せ時間と重なることから未だ課題となっているが、生徒の取り組み意識が向上していることから、今後、監督者不在でも生徒が自主的に学習に取り組む姿勢が身につくような学校風土の構築に努める。また、1学年生徒全員に農商併置の特色ある内容を学習させる「アグリ・ビジネス」を、上級学年でより特色を生かした効果的な学習内容への発展に続くようカリキュラムへの更なる充実を目指す。</p> <p>「生徒による授業評価」の質問事項が多く、生徒が回答しにくいことが考えられたため、回答形式を改善し、授業改善に向けた多くの回答が得られるよう工夫する。</p> <p>②6次産業化への取り組みを学校全体に広げるべく、専門教科が中心となり、科・系列・大学科との連携をすすめるとともに活動内容を積極的に広報し、地域との連携活動につながる取り組みとする。また、「6次化製造室」「マネジメント企画室」「商品企画室」「マーケティング企画室」「マーケティング実践室」等の施設を積極的に活用し、本校の特色ある活動を生かした連携広報を図る。</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(3月11日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
2 生徒指導・支援	<p>①生徒が安全・安心に学校生活を送るための指導を充実させ、生徒自らが主体的に行動し、新たな社会的課題に対応できる人材の育成を図る。</p> <p>②責任感や連帯感の醸成と達成感が得られるよう生徒主体の活動を充実させる。</p>	<p>①生活指導を充実させるため、職員間の共通理解を深め、社会人として必要なルール・マナーを身に着けさせる。また、様々な問題を抱えている生徒に対する支援を充実させる。</p> <p>②生徒が自主的・積極的に活動できるような指導体制を構築する。</p>	<p>①生徒一人ひとりに対応した生活指導を徹底するため、生活指導内規等の運用方法を確立させ、社会人としてのルール・マナーを定着させるよう繰り返し指導する。</p> <p>①SCやSSWとの連携を密にし、生徒情報交換会を活用し教員間の情報共有を図る。</p> <p>②生徒会行事や部活動・委員会活動が効率的に進められるように指導体制を整備する。</p> <p>②生徒に責任感と協調性を自覚させ、積極的に活動できる環境整備と意識改革を図る。</p>	<p>①生活指導内規について、職員・生徒が主体的に守ろうとしているか。</p> <p>①学校全体で問題を抱えている生徒の情報共有できたか。</p> <p>②部活動の登録状況と実績。委員会の活動実績。</p> <p>②各種行事運営等で生徒が連携して積極的に活動することができたか。</p>	<p>①職員一人ひとりが生徒指導内規を理解し、生徒指導にあたりとともに、改善する必要がある項目については、実情に即した内規の確立に向け職員間で議論や意見交換し、内規の修正ができた。</p> <p>①各学年に配置した教育相談コーディネーターを中心に、SCおよびSSWとの連携を密にとり、担任等へのフィードバックを極め細やかに行うことにより、多くの職員で生徒個々の状況に対応する体制が確立された。</p> <p>②各種行事や部・委員会活動が効率的に進められる指導体制が整えられてきた。</p> <p>②生徒に責任感を持たせることで、生徒間が連携して協力的に活動できるように意識改革を図ることができた。</p>	<p>①生徒指導の方向性については、職員間の共通理解が確立されているが、細かな手順や指導方法については今後も継続した議論をする。</p> <p>①SCおよびSSWへの相談件数が増加しており、それに伴いSC・SSWの業務量も増加している。現状の人員配置では今後、生徒個々に対する極め細やかな対応が難しくなる可能性も考えられる。</p> <p>②部活動の加入登録状況については未だに課題があるが、委員会の活動実績は生徒間の連携を密にすることで改善を図る。</p> <p>②年度当初より計画的に生徒間の連携を図り、主体的な活動による達成感を伝えていく。</p>	<p>○2つの伝統ある学校が再編統合されたので、日々の苦労は多いと思うが、それを感じさせない学校運営が保たれており、素晴らしい結束力かと思う。</p> <p>○時代の変化とともに多様な生徒も増える中で、先生方の熱心なご指導や生徒への体制作りに感謝する。また、欧米と比べカウンセリングシステムの遅れが課題に感じている。SCやSSWの常駐が必須の時代になっていると思われる。</p> <p>○部活動の加入状況は課題があっても、農業と商業に関する専門的な特色ある活動が地域連携を含めて活発に行われているので、素晴らしい実績と感じる。</p> <p>○文化祭を見学することで、生徒の実際の取り組みを見ることができ、学校の特色をより理解することができた。</p>	<p>①職員一人ひとりが生徒指導内規を理解し生徒指導にあたることができた。生徒指導の方向性について職員間の共通理解が確立されているが、細かな手順や指導方法については今後も議論していく必要がある。また、改善する必要がある項目については、実情に即した内規の確立に向けて、職員間で議論、意見交換、内規の修正を行った。</p> <p>①学年配置の教育相談コーディネーターを中心にSCおよびSSWとの連携を密にとり、担任等へのフィードバックを極め細やかに行うことができ、組織的に生徒個々の状況に対応する体制が確立することができた。SC及びSSWへの相談件数が増加し、それに伴いSC・SSWの業務量も増加している。現状の人員配置では今後、生徒個々に対する極め細やかな対応が難しくなる可能性も考えられる。</p> <p>②生徒会行事では、職員も組織的に動くことができ、生徒が主体的に活動する体制が整いつつある。文化祭では、花火打上げなどの新しい試みを実行することが出来た。</p> <p>②部活動・委員会活動では、意欲的な活動が見受けられる団体が見られるようになった。部活動への加入率が伸び悩んでいるが、農業科・商業科の独自の活動団体については活発な活動が出来た。</p>	<p>①新着任者、新入生が生活指導内規を十分に理解して学校生活に取り組めるよう、周知方法をより一層工夫する。また、特別な事情を抱える生徒のフォローをするために引き続き年度当初に生徒情報共有会を開催し、必要に応じて各学年に配置した教育相談コーディネーターを中心にケース会議を行い、関係各所と連携し組織として対応する。例年、特別指導に係る生徒、困りを持った生徒は新入生が対象となる場合が多いので、今後は新入生に対する処方を充実させる。</p> <p>生徒の心理面でのケアができるよう定期的なアンケート等を継続的に実施するとともに、「かながわサポートドック」を活用し、よりきめ細やかな支援ができるよう体制を整える。</p> <p>②部活動が少しでも活性化するように生徒会本部を中心に検討をすすめる。また、各種学校行事における生徒間の連携に対し、今年度の振り返りを生かし、次年度に向け改善策を検討する。体育祭や文化祭では、科や学年を超えた生徒間の交流や一体感が高まるような取り組みの準備期間での工夫改善を図る。</p>
3 進路指導・支援	<p>①社会の動向に対応できる産業人として、産業構造の変化や社会のニーズ等に対応した人物育成を推進する。</p>	<p>①産業の発展及び社会の発展に寄与する人物育成を推進する。</p>	<p>①ビジネスマナーの重要性を理解させ、インターンシップや校内実習等を通して、より実践的・現実的な職業観を身に付けさせる。</p>	<p>①社会で必要とされる基本的なビジネスマナーや、望ましい職業観を身に付けさせることができたか。</p>	<p>①就職希望の生徒に対して、TPOに即した基本的なビジネスマナーを身に付けさせることができた。</p>	<p>①身だしなみや挨拶、言葉遣いなどに関して、全校的には望ましいとは言いがたい状況も散見される。これからの時代に必要とされる社会人基礎力やビジネスマナーを着実に身に付けさせられるよ</p>	<p>○卒業式では厳粛な中、式が進行され、大変感動した。パフォーマンスもなく、素晴らしい卒業式で、日頃の指導の賜物と感じた。</p> <p>○毎年、丁寧な進路指導がなされており、素晴らしいと感じている。</p>	<p>①学年別の進路ガイダンスや就職希望者向け説明会、インターンシップ事前指導などを通して、TPOに応じた言葉遣いや身だしなみの整え方、挨拶といった基本的なビジネスマナーを身に付けさせることができた。</p>	<p>①生徒に働くことのやりがいや責任感について考えさせ、望ましい職業観を育てていくために、地域で活躍する社会人との交流活動を検討する。地域の産業界や個別の企業と連携し、校内での企業説明会開催や社会人として活躍する卒業生の講話などを実施する。</p> <p>進路支援に関する教員の実践</p>

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(3月11日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	②キャリア教育の充実を図り、高い専門性を持つスペシャリストを育成する。	②地域や社会の発展に貢献する高い専門性を持つスペシャリストを育成する。 ③生徒一人ひとりが適切な進路選択ができるよう、進路相談の充実を図る。	①ハローワークや進路支援業者との連携を強化する。 ②日頃の学習と将来の職業との関わりについて意識させる指導の充実を図る。 ③教員の進路支援に関する知識・技能の向上に向け、校内研修を実施する。 ③ITを活用した進路支援の取組を推進する。 ③適性検査等による、客観的な自己分析の機会を設ける。	①外部教育力等の活用により、校内進路ガイダンス等を充実させることができたか。 ②日々の学習を通して、各専門分野の知識・技術が定着しているか。 ③外部講師などによる、教員向け研修を実施できたか。 ③クラスルームや「Handy 進路室」等を活用した進路支援体制を推進できたか。 ③各学年の成長段階等に応じた、適性検査等を適切に実施できたか。	①進路支援業者との連携により、各学年の進路学習会等を充実させることができた。また、ハローワーク職員を招いた段階的な就職指導研修会を実施し、望ましい勤労観を育むことができた。 ②日常の学習や検定・資格取得への取り組みを通じて、各専門分野に関する基礎的な知識・技術の定着が図られた。 ③教員向け研修会や、校内企業説明会を実施した。 ③ITの活用により、進路に関する情報共有の迅速化や利便性の向上が図られた。 ③各学年の特性に応じた適性検査等を実施できた。	①指導体制の見直しと充実について検討をすすめる。 ②農業科・商商業科それぞれに特徴的な学習の強みを活かし、キャリア教育の充実につなげていく。 ③進路支援に関する教員の実践的な知識・技能の向上に向け、外部講師等の支援も得ながら効果的な研修を実施する。 ③IT活用と、対面による進路指導のそれぞれの長所を十分に活かした進路指導を実現できるよう工夫する。	○専門教育そのものがキャリア教育で、日々充実した教育を展開していることと感じている。 ○教員研修の具体と成果をお願いします。 進路指導でのIT活用はどのような内容か知りたいです。	①ハローワーク職員を講師として招請し、採用試験に向けた面接研修会を充実させることができた。 ①③1・2学年が同一の進路支援業者と連携することにより、生徒の実態や発達段階に即した体系的な進路ガイダンス等を実施することができた。 ②日々の学習活動を通して、農業・商業各専門分野に関する基礎的な知識・技術の定着が図られた。 ③Google クラウドやデジタルファイリングシステムといったITの活用により、進路に関する情報共有の迅速化が図られると共に、生徒・保護者が求人票等を自宅で閲覧できるなど、進路活動の利便性や効率性が向上した。	的な知識・技能向上に向けた研修を計画する。 ②農業・商業それぞれに特徴的な学習の強みを活かし、キャリア教育の充実につなげる。 ③進路支援に関する教員の知識と技能の向上に向けた校内研修の実施について、ハローワークや進路支援業者等とも連携しながら引き続き検討を進める。また、ICTの活用により進路活動の効率化が図られた一方、生徒とクラス担任や、生徒と進路G職員との対面での進路相談がやや希薄になっていないかとの懸念から、ICTと対面を併用しながら、それぞれの長所を十分に活かした進路指導を実現していけるよう工夫する。
4 地域等との協働	①農業科や商業科の専門教育活動について積極的に地域に広報しPRするとともに、魅力ある学校づくりを推進する。 ②農業科、商業科それぞれの高い専門性の知識と技術を活かしつつ、社会に貢献することができる生徒を育成する。	①農業科、商業科ならではの教育活動を踏まえ、両科が連携し、学校をPRしていく。 ②専門科の持つ知識・技術を活用し、地域と生徒が関われる教育活動と、開かれた学校づくりを推進する。	①学校紹介手法(体験入学、説明会、学校案内等)の内容を充実させ、本校の特色をより分かりやすく伝える取組をする。 ②地域学校協議活動や地域の幼小中学校との交流活動等の実施と推進に向け、関係機関、部署との連携を図る。	①体験入学や説明会のアンケート集計内容(中学生、保護者の感想や意見)と参加人数等実績。 ②各活動への参加生徒人数や指導実績、企業団体との協働や外部講師等の活用ができたか。	①学校PRの手法として、学校案内や紹介動画、体験入学の実施内容については、改善に努め、参加者からは概ね好評を得ることができた。 ②市内小学校や特別支援学校との交流に留まらず、オンラインも活用した他市町村の学校とも連携を図ることができた。	①学校PRの手法については、今年度の結果を踏まえ、内容の厳選や充実を努め、より良いものに改善する。 ②地域との連携においては、専門高校ならではの教育活動を積極的に発信し、交流活動に結び付ける。	○平塚農商高校は、地域連携の充実を図り、十分な成果を上げていると感じている。今後もさらなる工夫に期待し、楽しみにしている。	①体験入学、説明会においては募集定員を拡大すると共に、生徒が説明の主体となった取り組みをした。また、学校案内については地域連携の取り組みと、それぞれの学科の強みをPRするページを新に設け、本校の特色を伝える工夫を盛り込むことができた。 ②地域連携として、農業科では、小学生の田植え体験やオンラインによる野菜栽培に関するアドバイス授業を実施した。商業科では、平塚市の「よさこい祭り」運営や「ひらつか七夕まつり」での七夕飾り作成など、生徒が主体となる教育活動が実施できた。	①体験入学や説明会においては、より参加したいという気持ちを引く内容の厳選と、募集定員の更なる拡大について検討する。また、学校案内については、農商併置校ならではの魅力と特色を伝える場となるよう継続的に工夫を続けるとともに、中学生やその保護者の目を引くデザインを意識して作成する。 ②地域からのニーズを捉え、求められる学校になるよう特色をアピールすると同時に、生徒自身の学びの場となるよう留意する。

視点	4年間の目標 (令和2年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月7日実施)	総合評価(3月11日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
5 学校管理 学校運営	<p>①新校舎及び耐震工事中の校舎の効果的活用と学習環境の充実を図る。</p> <p>②事故・不祥事のない、地域から信頼される学校づくりと持続可能な学校運営と教育の質を高めるため「働き方改革」を推進する。</p>	<p>①学習環境を充実させるため、2棟や商業教育棟の整備・整理を行う。</p> <p>②学校防災マニュアル(令和5年度は2棟を含む)を基本として、防火・防災に向けた管理を徹底し、生徒の安全管理に努める。</p> <p>③事故・不祥事防止のため、職員の当事者意識を高めるための取り組みを行う。</p>	<p>①ゴミの分別、減量化の意識付けとその仕組みづくりを行う。</p> <p>①2棟を中心に足りない物品や必要な物品等を洗い出し、プレハブ・商業教育棟を含めて職場環境の整備を行う。</p> <p>②様々な災害に対応した訓練を行い生徒対象のD I G研修を行うなど、防災の意識を高めることで、主体的な行動を引き出す。</p> <p>③職員会議の始めに、職員主導による事故防止研修会を行う。</p>	<p>①ゴミ分別・減量化の取組みの実施できたか。</p> <p>①定期的に物品等の使用状況や過不足の確認とWi-Fi環境を整備できたか。</p> <p>②プレハブ・本館・商業教育棟からの避難経路に問題がなく、訓練方法の工夫ができ、その効果はあったか生徒アンケートを行う。</p> <p>③主体的な活動が行えたか事故・不祥事防止研修会のアンケートを行う。</p>	<p>①ゴミの分別については、問題が発生した際に、すぐに生徒に周知し、教員間の連携によって対応することができた。</p> <p>①Wi-Fi環境については、学習支援グループと連携を図り、少しずつではあるが整備することができた。</p> <p>②今年度は生徒対象のD I G研修を1年生全員を対象に実施し、防災意識を高めることができた。</p> <p>③職員が中心となった事故・不祥事防止の呼びかけを、朝の職員打合せを中心に実施することができた。</p>	<p>①ゴミの分別については、美化委員を積極的に活用することで改善を図る。</p> <p>①Wi-Fi環境が整備されていない施設については、学習支援グループや事務室との連携し改善を図る。</p> <p>②D I G研修を生徒に指導できる教員を増やすため、教員の研修内容を生徒の研修内容に合わせたものに変更する。</p> <p>③職員の当事者意識を高めるための工夫を考えて実施する。</p>	<p>○平塚農商高校のゴミの分別で、年間を通じて多いゴミは何かから新たな課題が見えてくるのではないか。</p> <p>○コロナ禍の副産物としてオンラインを使った授業やWi-Fi環境などは当たり前のものになったが、今後も充実した環境づくりと予算確保をし、時代に合った教育をお願いする。</p> <p>○防災訓練、災害に対する意識づけは必須のため、自治会等、地域を巻き込んだ検討をお願いする。</p> <p>○公務員ではあるが、勤務時間内と勤務時間外(プライベート)の事故・不祥事の指導は分けるべきかと感じる。</p>	<p>①校内美化のようすから、校内のゴミ分別と生徒のゴミの持ち帰りについての成果を見ることができた。</p> <p>①不足物品等の洗い出しを定期的実施し、適切に補充することができた。職員室内のプリンターの入れ替えとシュレッダーの増設を行うことができた。</p> <p>②第2棟からの避難経路の確認を中心に、学校防災マニュアルの修正を行った。また、1学年生徒には2学期、職員には3学期中にD I G研修を実施することができた。</p> <p>③不祥事ゼロプログラム推進委員会が中心となった事故・不祥事防止の呼びかけを、今年度は朝の打合せを中心に実施した。</p>	<p>①ゴミ分別と生徒のゴミの持ち帰りの活動を定着させるため、定期的に生徒へ向けた注意喚起を行うとともに、美化委員の活動から生徒に当事者意識を持たせる指導をする。</p> <p>①学習支援グループと連携しWi-Fi環境充実のため、アクセスポイント増設の要望を継続的に行う。</p> <p>②令和6年5月に第3棟耐震工事が完了し、仮設プレハブ棟からの教室移動がある。校舎配置と生徒の動線が変わり、生徒への怪我・事故がないよう安全を確保するとともに清掃配当や避難経路、防災に係る訓練等についての計画を改めて作成する。また、生徒対象のD I G研修がより効果的に行えるよう、指導できる職員を増やすための職員研修を計画的に実施する。</p> <p>③不祥事ゼロプログラム推進委員の定期的な開催ができるよう年度当初に日程を立て、細やかな不祥事防止についての振り返りと検証が行えるよう工夫をし、より職員が主体となった研修の推進をすすめる。</p>